

第3学年 道徳科（人権）学習指導案

1 主 題 名 共に生きる

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

自らが犯した失敗や過ちを深く反省し、自分の生き方を改善しようとしている人を温かく受け入れる態度を育てる。

4 指導計画

(1) これまでの学習

道徳科「犯罪被害者等」（“あわ”人権学習ハンドブック）	1時間
総合的な学習の時間「命の大切さを学ぶ教室」（講師〇〇さん講演）	2時間
道徳科「面会 ～弟を殺した彼と、僕。～」(わたしの願い)	2時間
道徳科「刑を終えて出所した人」（“あわ”人権学習ハンドブック）	1時間
総合的な学習の時間「更生保護活動…保護司としての関わり」（講師△△さん講演）	2時間

(2) 現在の学習

道徳科「二つの道」（“社会を明るくする運動” 広報ビデオ） 2時間（本時2／2）

(3) これからの学習

総合的な学習の時間 『一滴の涙』ある夏の出来事（全国中学生人権作文） 1時間

5 本時の学習

(1) 目標

過ちを犯してしまった人に対する人権侵害について考え、本人の強い更生意欲とともに周囲の人々の理解と温かい支援が必要であることを理解し、支えていこうとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値	B－（9）相互理解，寛容
-------------	--------------

(2) 普遍的な学習のテーマ 人権の尊重

個人人権課題名 刑を終えて出所した人

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 前時の振り返りをする。	○動画の前半について振り返り、本時への意識付けを行う。
2 動画の後半を視聴する。	○翔太の立場になって視聴するよう促す。
なぜ、翔太は立ち直ることができたのだろうか。	
3 なぜ翔太は立ち直ることができたかを 班で考え、ホワイトボードにまとめる。	○周囲の人が翔太を正しく理解し、支援することが不可欠であると理解させる。 ①
4 人が更生・社会復帰するために、私たちは どうしたらよいかを考え、発表する。	○過ちを反省し、生き方を改善しようとする人を認め、温かく受け入れ、支えていこうとする意欲を高める。 ②

(4) 評価

- ・ 過ちを犯してしまった人が更生するためには、本人の強い更生意欲だけでなく、周囲の人の理解と支援が必要であることを理解できたか。 （知識的側面）①
- ・ 誰もが温かく受け入れられる人権尊重の社会をつくっていこうとする意欲を高めることができたか。 （価値的・態度的側面）②